



信州・青木村ふるさと景観100選

鯉幟の花見遊泳

AOKI 青木村 議会だより

第49号

平成25年5月1日発行



発行／青木村議会
編集／議会報編集委員会
印刷／(株)アオヤギ印刷

青木村議会へアクセス E-mail: gikai@vill.aoki.nagano.jp



青木小学校入学式



青木中学校入学式

主な
記事

青木村議会だより
第49号

平成25年第一回定例会	2
平成25年度予算	4
常任委員会報告	5～8
一般質問	9～11
本会議討論	12
第6回村づくり懇談会	12～13
議会の動き	14～15
議会日誌・中学生からの感想	16

平成二十五年

第一回定例会

平成二十五年第一回定例会が、去る三月五日に招集され十三日までの会期で行われました。議案は条例改正、寄附採納、平成二十四年度一般会計・特別会計補正予算、平成二十五年一般会計・特別会計予算と請願二件で、慎重審議の結果、請願については不採択となり、他の案件については原案のとおり可決されました。また、一般質問では、三人の議員から村政に対する意見や質問がなされました。

村長あいさつ (要旨)

今定例会におきましては、平成二十五年一般会計及び各特別会計予算案、また平成二十四年度一般会計第五号補正予算ほか諸議案のご審議を頂くものであります。

さて私事でありますが、村長職五期二十年を多くの皆さんに支えて頂き、ここまで来ましたが、今期の任期を以って職を辞する所存であります。振り返りますと時の流れの速さを感じます。その間私心を捨てて勤めてまいったつもりですが、その評価は議員の皆さんをはじめ村民の皆さんの判断にお任せするものと考えます。申し上げるまでもなく、村としての運営は与えられた予算の取捨選択であり、村民の福祉の向上、安心して村に住み続けることの出来る生活の構築でありました。今ここにそれを果し得たかどうか、私自身

は忸怩たる思いであります。

村の大切な財源の配分、事業導入の決定を進めてまいった二十年、その間記憶に残るものとして、国による平成の大合併推進に抗して自立の方針を選択したことが挙げられます。そのためもあって、現時点ではきめ細かな青木村の諸施策の遂行が果されております。

今後の村の課題として申し送りたいことは、**僭越ながら一にも二にも行政の合理化・スリム化の継続であります。**

結びに、村長・村議選挙が四月二十一日に実施されて、二十五年以降の体制が変わります。議員の皆さんの引続き責任を担われる方を除き勇退される皆さんには、私から村民に代り、その村政に対する四年間の責任の遂行に深甚なる敬意を表します。



今期限りで勇退する宮原村長

議案

議案第一号

特別職の職員で常勤の者等の給与に関する条例の一部を改正する条例

教育長の給料月額を二十六年三月末まで二%引き続き減額するものです。

議案第二号

青木村営住宅設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

国の法律改正に伴い、市町村が条例の中で基準や資格要件について独自に定めるものです。

議案第三号

青木村特別会計条例の一部を改正する条例

二十五年から二十九年までの計画で、簡易水道等の施設整備事業が始まることに伴い、新たに簡易水道建設特別会計を条例に追加するものです。

議案第四号

青木村条例の用字、用語等の整備に関する条例

現在の実状に対応した編成とするため、既存の条例に

用いられている用字・用語、表現等、内容に変更を及ぼさない範囲で整備をするものです。

議案第五号

青木村公民館条例の一部を改正する条例

中挾防災研修センターの建設に伴い、中挾分館を同センター内に設置するものです。

議案第六号

青木村日向団地公民館建設基金の設置、管理及び処分に関する条例及び青木村きだち団地公民館建設基金の設置、管理及び処分に関する条例を廃止する条例

施設の建設に伴い、基金の取り崩し等が終了することから、それぞれの条例を廃止するものです。

議案第七号

青木村地域優良賃貸住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

新たに建設された青木中央第二団地について、追加するものです。

議案第八号

寄附採納について

次の方々から寄附の申し出があり、ありがたく採納させて頂いたことになりました。

一、櫻井茂美氏(前駐在所長) 自転車四台
交通安全教室・自転車教室の充実として

一、松田幸一氏
(松田時計店店主)
軽三輪自動車「マツダ K-360」一台
青木村民俗資料館展示物として

一、下形浩光氏
十万円
一般寄附金として

議案第九号 平成二十四年度青木村一般会計補正予算について(第五号)

歳入歳出それぞれ二千三百六十七万六千円を追加し総額を二十八億二千三百四十万円とするものです。歳入の主なもの、地方交付税三千二十九万九千円の増、県補助金三百五十八万四千円の減、村債三百十万円の減などで、歳出では、道路新設改良費で千九百四万八千円の増、松くい虫被害木量の減による委託料

千四十七万円の減などが主なものです。

議案第十号 平成二十四年度青木村国民健康保険特別会計補正予算について(第二号)

歳入歳出それぞれ七十万円を追加し、総額を五億七千五百六十六千円とするもので、共同事業拠出金の額の確定と事業の実績等に伴うものです。

議案第十一号

平成二十四年度青木村簡易水道特別会計補正予算について(第二号)

歳入歳出それぞれ五十五万二千円を追加し、総額を一億二千二百七十二万三千円とするもので、歳入は使用料の減と、歳出では施設管理費の修繕料百十万五千円、村単工事請負費三百三十六万八千円が主なもの。

議案第十二号

平成二十四年度青木村別荘事業特別会計補正予算について(第二号)

歳入歳出それぞれ三百九十九万九千円を追加し、総額を二千三百三十八万二千円

とするもので、歳入は繰越金、別荘管理収入の増と、歳出は別荘地内の工事費負担金二百六十一万九千円が主なもの。

議案第十三号

平成二十四年度青木村特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算について(第二号)

歳入歳出それぞれ五百七十四万四千円を追加し、総額を二億七千六百六十八万二千円とするもので、歳入は下水道費分担金二百五十八万円、歳出は積立金五百万円、処理場施設の修繕料六十五万一千円が主なもの。

議案第十四号

平成二十四年度青木村介護保険特別会計補正予算について(第二号)

歳入歳出それぞれ千八百六十万円を追加し、総額を五億六千八百五十五万六千円とするもので、歳入は、基金繰入金千八十三万三千円、歳出は、居宅介護サービス給付費千七百十万円の減、施設介護サービス給付費四千万円の増が主なもの。

議案第十五号

平成二十五年度一般会計予算から議案第二十三号 平成二十五年度青木村後期高齢者医療特別会計予算について(四頁別表参照)

一般会計予算の主な事業としては、村営住宅二戸、西立谷橋梁の架け替え、中型バス購入、社会資本整備総合交付金事業を活用した道路改良・村営プールの改修などが計画されており、前年度当初予算費六%減の予算となりました。

請願・陳情

三月定例会に提出された請願・陳情は次のとおりです。

請願第一号

オスプレイ配備撤回と低空飛行訓練中止を求める請願

反対多数により不採択

請願第二号

生活保護基準の引き下げはしないことなど国に意見書提出を求める請願書

反対多数により不採択



青木村民俗資料館に展示された軽三輪自動車(マツダK-360)

平成25年度予算

一般会計・特別会計合計予算規模

(前年度比0.6%減)

総額 **40億5,800万4,000円**

会計名		歳入・歳出予算額(円)	対前年度増減率
一 般 会 計		2,389,000,000	△6.0%
特別会計	国民健康保険特別会計	517,390,000	△3.7%
	簡易水道特別会計	112,364,000	△6.9%
	簡易水道建設特別会計	122,872,000	皆 増
	別荘事業特別会計	17,477,000	0.5%
	地域開発事業特別会計	712,000	0.0%
	特定環境保全公共下水道事業特別会計	277,347,000	2.8%
	介護保険特別会計	571,430,000	4.4%
	後期高齢者医療特別会計	49,412,000	4.9%
総 合 計		4,058,004,000	△0.6%

事業概要		予算金額(単位: 円)
平成25年度 主要事業	中型バス購入	23,215,000
	西立谷橋梁新設工事	35,000,000
	村営住宅2戸	39,564,000
	央沢東沢線道路舗装(社会資本整備総合交付金事業)	25,000,000
	50mプール改修工事(社会資本整備総合交付金事業)	78,225,000

常任委員会報告

総務建設産業委員会

平成二十五年第一回青木村議会定例会本会議で、総務建設産業委員会に付託された案件、質疑、答弁は次のとおりです。

尚、委員会審議は三月十一日に行われました。

議案第十五号

平成二十五年年度青木村一般会計予算について

村民税の減収動向について

税務係長答弁

住民税は経済が活性しない中、給与取得に大きな変動はなく微減、法人税は過去実績、前年度見込みを勘案し若干厳しい税収を策定した。

軽自動車税の収入見込額の算出根拠は

税務係長答弁

二輪車離れ、農業離れ、高齢化を鑑み、二輪車は二十四年度実績の5%減、四輪貨物は2%減を見込む。

たばこ税制改正による影響は

税務係長答弁

平成二十五年四月施行のたばこ税率改正により村たばこ税二百万円の増収見込み。

地方特例交付金の減額理由は

総務企画係長答弁

平成二十四年度実績と平成二十五年年度の地方財政計画の見込みが一・六%減になった事を考慮した。

地域公共交通確保維持事業補助金の内容について

総務企画係主査答弁

地域公共交通事業費に対する赤字補填が目的で対象経費の二分の一が対象となる。

電算システム関連事業の内容について

総務企画係主査答弁

財務会計システム、総合行政システムの機器更新事業である。

財政管理費修繕料の内容は

総務企画係主査答弁

公用車の修理点検車検、庁舎の空調設備修理、事務機器修繕、リフレッシュパークローラー滑り台の修理である。

雨量等監視システム定期点検委託料の見積内容が不適正では

総務課長答弁

正確なデーターの取得と活用は防災上必要であり、検討不十分な点を反省し充分な精査をし取り組んでいく。

上田広域消防負担金の増額理由は

総務企画係主査答弁

消防救急無線デジタル化事業、高機能消防指令装置整備事業、消防本部庁舎等耐震化及び増改築事業の計画による。

公債費の償還状況は

総務企画係長答弁

平成二十四年末時点で、最長は平成四十四年迄のもの、利率5%以内のものが九十五%、費目別では臨債の元

利償還金が四割を占める。

村営住宅の入居状況は

産業観光係主事答弁

一般村営住宅は五十六戸中二戸、若者定住促進住宅は四十戸中二戸空いている状況である。

農地費の村単土地改良事業の場所は

建設産業課長補佐答弁

当郷の中村水路と村松の柿ノ木水路の改修を予定している。

樹種転換事業について

建設係主査答弁

まとまった場所を継続して実施する事が大前提で平



雨量監視システム



中挟・太子公園歩道手すり

成二十五年度は殿戸地区の三ヘクトールを予定している。

上田地域高等職業訓練協会について

建設産業課長答弁

上小高等職業訓練校の閉校で地域の企業が技術を継承する為、商工会、企業の有志が集まり同協会を設立した。補助金は四市町村の均等割、事業所割で積算したものである。

観光施設の整備工事及び改修工事の内容は

産業観光係主事答弁

温泉の観光案内看板二件と中挟太子堂の歩道手スリの交替工事である。

討論

反対討論なし

賛成討論 居鶴 貞美議員

歳入では、景気動向の低迷により、村民税個人分、法人分で五十万八千円、固定資産税で百七十七万二千円、宿泊、日帰り客の減少により入湯税十三万二千円の減収、一方、税率改正に伴なう村たばこ税二百四十九万一千円、軽自動車の販売増加による軽自動車税十一万三千円の増収により、村税で前年比十九万二千円の増額予算で構成比十五%と〇・九ポイント上昇しています。地方交付税は前年比二千六百万円の減額で厳しい状況が続いています。歳出では、まちづくり交付金事業の央沢東沢線道路舗装二千五百万円、松くい・松林健全化委託事業他

テニスコートの使用状況は

税務係長答弁

直近の実績は、百十九件の利用があり、別荘所有者八十五件、村内在住者三十四件、村外者はゼロである。

村単工事費の内容について

税務係長答弁

緊急性のある復旧工事四ヶ所を計画している。道路舗装一ヶ所、水路改修二ヶ所、林道整備一ヶ所である。

討論

反対討論なし

賛成討論 内藤 賢二議員

歳入では、不動産売却収入もなく、ほぼ前年並の千七百四十七万七千円の予算編成となりました。歳出では、臨時職員の一

日勤務体制と草刈等作業員の賃金増により、七十五万四千円増の四百四十八万一千円、村単事業工事四箇所の請負費で二百四十六万八千円、施設管理機器購入で四十九万六千円が計上されました。

別荘事業会計は管理収入で運営されています。二十

三年度決算で収入未済額の一部を不納欠損として処理されましたが、健全な別荘事業を継続する為に収入未済額がない様更なる努力をお願いします。

別荘地は山間の傾斜地に点在し、その都度補修、修繕等を行っていますが、安心、安全面から今後とも管理体制の強化を望みます。造成地においては、未販売八区画の早期完売と未建築百六十五区画の建築を促進して頂く事をお願いし賛成討論と致します。

以上、全員賛成にて原案のとおり可決いたしました。

議案第二十号

平成二十五年度青木村地域開発事業特別会計予算について

質疑、討論なし
以上全員賛成にて原案のとおり可決しました。

税務係長答弁

一軒減に加え、管理費前年度実績の九十%、下草刈費前年度実績の八十%相当で計上した。

別荘管理収入の減額理由は

議案第十九号 平成二十五年度青木村別荘事業特別会計予算について

社会文教委員会

平成二十五年第一回青木村議会定例会本会議で、社会文教委員会に付託された案件の質疑答弁は、次のとおりです。

委員会審議は、三月八日に役場二階の会議室にて行なわれました。

議案第十五号

平成二十五年年度青木村一般会計予算について

高齢者地域支え合い事業補助金の内容は

住民福祉課長答弁

老人クラブの活動費の助成である。

成年後見センター運営事業の内容は

住民福祉課係長答弁

判断能力の不自由な方の支援で上田市社協へ委託をしている。

シルバー人材センター負担金について青木村での実情は

住民福祉課長答弁

村内では五十二名が登録されている。主には草刈作業が多い。

授産所で作業されている人達の状況は

授産所長答弁

利用者は、男性一名、女性十三名が利用されている。

保健衛生費で各検診が細かくされるようになったがその効果は

住民福祉課長補佐答弁

大きく分けて、特定検診、ガン検診に分けられガン検診は、五つのガンに七種類の方法で検診を行ない成果は、早期発見と精密検査もほぼ100%実施されている。

大星斎場が指定管理者となつて外部委託となったがその状況は

総務課長答弁

上田広域の会議で選定委

員会が行なわれ、三社が指名されて、上田市の信州さがみ典礼が管理者に決定された。

保育士の交流はどの様に考えているか

総務課長答弁

現在東御市と交流を行なっているが、定住自立圏構想の中で上田市と交流を進めたい

児童センターの運営状況はどうか

教育長答弁

昨年度は、子供の利用は延べ人数で一万八千四百十一人で年々増加している。評価は大変高い。今後は自転車クラブをやるうと言う話もある。

英語の教科について小・中学校の先生の交流をするとの事だが先生の人数的に影響は出ないか

教育長答弁

保小中一貫教育の中の五つの重点項目の方針で決定された。人数的には週に一

回位であるので影響は無い。

大法寺三重塔保存修理事業補助金とはどんな内容か

公民館長答弁

屋根が相当傷んでいるので全面葺替えをしたい。総

事業費は五千六百十万円、補助率は国県で八十四%、残りの十六%を村と大法寺で負担するもので、二十五年事業費千五百万円の内、村の補助百二十万円を計上した。工期は平成二十五年十月から平成二十六年



児童センターの自主学習の様子

八月まで。

青木村図書館の利用の状況は

公民館長答弁

利用者は、平成二十三年度二月末で七千六百七人、平成二十四年度七千六百九十人、貸出数では平成二十三年度三万五千四百四十冊、二十四年度は三万八千七冊が利用されている。

討論

反対討論なし

賛成討論 小林 和雄議員

平成二十五年度は骨格予算であります。まず民生費ではお年寄が集えるくつろぎの湯管理委託料等で二千三百万円、また、二十四万円の湯計上し村内での働き場所を提供しています。その外平成二十五年度から出産祝金第一子五万円、第二子十万円、第三子十五万円、第四子二十万円と他市町村に比べて充実させています。衛生費では人間ドックの受診補助が鹿教湯病院以外でも出来るようになります。また、更に窓口負担が補助金を抜いた支払いが他の医

療機関でも出来るよう要望致します。

教育費では、学校教育関係について児童、生徒に対して子供一人、一人の個性を伸ばしながら学校本来の責務である学力向上にも力を入れ青木村の伝統である、保、小、中一貫教育を継続し更に発展させるよう要望致しまして賛成討論と致します。

以上全員賛成にて、原案のとおり可決しました。

議案第十六号

平成二十五年度青木村国民健康保険特別会計予算について

人間ドックの補助金について鹿教湯病院以外でも主な医療機関の窓口で補助金を差し引いた支払いができないか

住民福祉課主査答弁

鹿教湯病院、三才山病院では、補助金を差し引いた支払いができるが今後は他市町村を参考にしながら検討したい

高額医療費の病気の内容は

住民福祉課主査答弁

二十四年度から比べて九百三十万円増えている。ガン、循環器の関係が高額になっている。

討論

反対、賛成討論なし

以上全員賛成にて、原案のとおり可決しました。

議案第十七号

平成二十五年度青木村簡易水道特別会計予算について

水道全体では供給が多く需要が少ないと思うが、水道料金の見直しは無いのか

村長答弁

水道料金は他市町村に比べれば高いが一般会計から繰出しが一千万円以上あるので当面は現状で行きたい

討論

反対、賛成討論なし

以上全員賛成にて、原案のとおり可決しました。

議案第十八号

平成二十五年度青木村簡易水道建設特別会計予算について

同じ簡易水道で一方は建設だが特別会計を二つにする根拠はどこにあるのか

住民福祉課長答弁

一般の経常経費的とな大きな事業が入る平成二十五年から五年間の大規模な事業になるのはつきり分かるように別にした。

水道建設について水の量は足りていると思うが

村長答弁

滝川ダムからの取水のバツクアップ体制を考えている

討論

反対、賛成討論なし

以上全員賛成にて、原案のとおり可決しました。

議案第二十一号

平成二十五年度青木村特定環境保全公共下水道事業特別会計予算について

現状の普及率とこれからの見込みはどうか

住民福祉課長補佐答弁

平成二十三年度まで、水洗化率は九十・七九%で接

続率は、八十三・四八%である。未接続件数は二百六十二件で新築、改築の予定がある家が多い。既存住宅は少ない状況である。

討論

反対、賛成討論なし

以上全員賛成にて原案のとおり可決しました。

議案第二十二号

平成二十五年度青木村介護保険特別会計予算について

寝たきり、認知症、老人介護慰労金の内容は

地域包括支援センター長答弁

在宅者の介護度により年二回支給される。

討論

反対、賛成討論なし

以上全員賛成にて原案のとおり可決しました。

議案第二十三号

平成二十五年度青木村後期高齢者医療特別会計予算について

質疑、討論なし

以上全員賛成にて原案のとおり可決しました。

第一回青木村 議会定例会

一般質問

小林 和雄議員

- 一、宮原毅村政五期二十年間の自身の総括的評価について
- 二、青木村の平成大合併に頼らない自立の道を選ぶだがその効果について
- 三、次の村政を携わる後任者に対して継続してほしい事柄、また、行政方針について何を望むか

村長答弁

宮原栄吉氏は戦後の困難な時代に諸々の農業構造改善、小中学校の新築、文化会館、体育館等の事業遂行を果たしたと評価している。ただ村政担当が長期のためある面では独裁の趣きが見られ民意の汲み上げが充分ではなかったと思う。一番改革しなかった事は住民に安心して住まわせる地域造りを目指そうとの信念であった。一番に心掛けた事は、青木村ではないが外から見て民間企業に比べて職員が多く余裕があるなと思ったので特に行政執行のスリム化を目指した。

二十年間の自身の評価はいつも果たさなければいけない事、例えば農業の振興、観光の強化策等々理想に追いつけないもどかしさが続いた。一方で教育での学校施設の強化やラポートの特養建設等の福祉面の向上施策に力を尽くした。

- 二、青木村の平成大合併に頼らない自立の道を選んだがその効果について

(問) 国ではいわゆるアメとムチで合併を推進させて来たが青木村は自立の道を選んだがどこも合併時はバラ色の構想を立てるが、市町村合併は元々経費の削減が目的であるので対等合併と言っても小さな地区から職員を引き上げたりするのが実体である。しかし自立の道でも限られた財源の中で行政を進めなければならず合併しなくて良かった点、どのような効果があったのかまた合併しなくて思うように行かなかった点があったかどうか

村長答弁

平成の大合併に拘せず自立の選択をしたことで公共下水道、簡易水道の百億円に及ぶ投資での早期完結、役場庁舎の建設、光ファイバー網の村内敷設、また国県の事業導入で青木街の歩道整備、道の駅の誘致などが思い返される。

効果としては、顔の見える行政の進め方が出来た。

合併しなくて思うように行かなかった点は特に無い、広域での定住自立圏形成によ

- 三、次の村政を携わる後任者に対して継続してほしい事柄、また、行政方針について何を望むか

(問) 為政者が変われば当然ながらその人の行政方針があるが、しかし行政は住民サイドから見ても重要な事業は継続性も大事で後任者に継続してほしい事柄、行政方針はどんな事か

村長答弁

特に挙げれば一番目に自立スタンスの継続、二番目に行政の健全施策の継続、三番目に職員体制のスリム指向の維持、四番目に事業の選択と集中(北信セメントの跡地開発、白川簡易水道事業の継続)等が上げられる。

(問) 北信セメントの跡地利用について役場の若手職員グループで検討されているとの事だがどこまで進んでいるのか

村長答弁

まちづくり交付金事業で土地の方も対象になるので平成二十四年度でほとんど買収が出来る。上部の計画は現在白紙で村民の総意で計画し実行するのがベターであるので次の組織で事業を進めてほしい。

村内の公共事業



川崎 攻議員

- 一、安全・安心・誰もが住みたくなる村づくりを
- 二、教育・文化の振興発展をめざして
- 三、農林業・地域産業の振興をめざして
- 四、住民の命と財産を守るために
- 五、豊かな自然と環境を守るために



小学校体育館屋根に太陽光発電を

一、安全・安心・誰もが住みたくなる村づくりを

(問) 少子高齢化社会の中で、青木村の要介護認定者数は

三百十人。居宅介護(支援)サービス受給者数(在宅)百四十八人。独り暮らし老人は百五十四人。高齢者世帯数は二百二十一名いますが、障害者、高齢者の生活環境の整備を積極的に取り組むとのべているが、村長は具体的にどう取り組むのか

村長答弁

行政の中で福祉問題が最大のポイント。今、しあわせホーム(障害者グループホーム)建設中、さらに充実を計っていきたい。

(問) ラポートの待機者をなくす努力はされているのか

住民福祉課長答弁

現在の待機者は七十七名、介護保険料が五億円を超え厳しい状況で基金も取り崩している中で財政バランスを考えて対処していきたい。

(問) 人間ドック補助拡大を計ると述べているが

住民福祉課長等弁

国民健康保険以外に二百万円の補助をしている、本人負担の場合、鹿教湯病院だけが今後は他市町村を参考に受ける様考えていきたい。

二、教育・文化の振興発展をめざして

(問) 就学援助での高校生のバ

ス通学利用者半額について、バス通学利用者だけでなく、自転車・自家用(父母)通学者も補助できないか

総務課長答弁

二十五年度的一般会計で八百万円、全部村の単独予算である(現在の対象者は三十五人)ため無理だ。

(問) 保育園・小学校・中学校での給食費の滞納状況は

教育長答弁

年度をまたいだ滞納者はいない。

(問) 給食材料の地産地消の割合はどこまで進んでいるのか

教育長答弁

県内産で(小・中)三〇%、五〇%。保育園では八・二八%。

三、農林業と地域産業の振興をめざして

(問) TPP交渉参加反対の立場を、村長は明確にして大きな運動にしてゆくべきではないか、政府の対応をどう思うのか

村長答弁

国の動きは対象品目が多くなれば交渉参加にゆくだろう。県の方向は反対だが、農協などの支援を一緒に考えて行く。

(問) 鳥獣対策及び荒廃地対策の進捗状況はどうか

建設産業課長答弁

材料支給方式で取組み(防護柵二十三年度から二十五年度予算で二十六・五キロメートル実施。(約村の半分位)(専門職員一名と臨時職員二名増して)

四、住民の生命と財産を守るために

(問) 地域防災計画の見直しを図るといふが

総務課長答弁

東日本大震災を受けて、村の減災と避難場所の再確認等について、防災マップ作成は、今、職員で回覧、建設事務所の結果を待っている。

(問) 地域支え合いの取組み状況は

住民福祉課長等弁

現在三地域で、今年度はさらに三地域で取り組まれている。

五、豊かな自然と環境を守るために

(問) 小学校体育館屋根への太陽光発電設置への取組み状況は

総務課長答弁

県に一億円設置要望したがダメで、三千万円を要望し、結果を待っている所。

山本 悟議員

一、村長五期二十年（村議一期通算二十四年）の総括について

二、いじめ問題と青木村教育委員会とのかかわりについて

三、いじめ防止条例の制定について

一、村長五期二十年（村議一期通算二十四年）の総括について

初当選された二十年前を振り返ると、バブルがはじけ円高株安、生産拠点の海外移転がすすみ税収が減じはじめた時代。理念として「透明性の向上」、「情報伝達」、「対



話の村政」を掲げられた。二期から五期は無投票で信任再選された。今迄の最大の選択肢であった市町村合併については、国のアメとムチによる誘導強制に惑うことなく村長の強い指導力と村民の総意として今日がある。保、小、中学校整備。庁舎・保健センター、児童センター新築。図書館・歴史文化・民俗資料館・各地域交流センター、村営住宅建設。特筆すべきは特養・「ラ・ポルトあおき」の新設。公共下水・簡易水道の整備、光ファイバー布設による情報基盤整備等があげられる。子育て・教育面では不妊治療費の補助、出産祝金、保育料の減免、保育体制の充実、村費教員の加配、高校生通学費半額補助、保・小・中一貫教育の確立等。

村長は前村長の多選・ワンマンを批判され村長になられたと聞いている。御自身も期を重なるにつれて個性が全面に出て必ずしも議会や民意が尊重されない面もあった。

（問）自立を選択し、ハード、ソフト沢山の事業・制度を実行され多くの村民は「住んでよかった」と感じていると思う。健全財政・子育て・教育・福祉と総体的に評価して九十五点

の通知票をおあげしたい

村長答弁

期を重ねる中で、「最後は私が決める」と言う理念と責任感の中の言動である。

議員の指導、村民の支えのもと村政を担当させていた。次期村長には行政の合理化・スリム化の継続と課題に向つての「選択と集中」並びに自立方針スタンスの継続を。自己採点は七〇八十点。

二、いじめ問題と青木村教育委員会とのかかわりについて

昨年十二月大阪市の市立桜宮高校男子バスケット部の主将が顧問の体罰後自殺、昭和六十二年篠ノ井西中二年の女子生徒がいじめを苦に自殺をした。柔道女子日本代表に対する監督による体罰問題等。篠ノ井西中では昨年も女子生徒の命日に全校で「人権を考える日」を設け生徒全員が「いじめを許さない決意」をし人権宣言をしている。

（問）村長が議会の同意を得て任命する学校・社会教育、文化・スポーツに関する人事・予算権のない村教委。代表する委員長と常勤の事務方トップの教育長で構成する機関。一般論として県教委を含めた組

織の有り方、定例会等会議の公開、「不祥事公表ガイドライン」が議論されている。村内小中学校のいじめ問題及び傍聴者の有無等について何う

教育長答弁

村内小中学校でのいじめ問題は私が就任してからはない。公開が義務付けられている会議では今年度一人の村民が傍聴された。

三、いじめ防止条例の制定について

（問）一般的にいじめとは冷やかし、からかい、悪口、脅し、仲間はずれ、集団による無視、暴力、持ち物の損壊、強要、パソコンや携帯電話による誹謗中傷等と文科省の定義がある。すでに憲法の基本的人権・個人の尊厳を始め児童虐待防止法、学校教育法、子供の権利条約等広い意味での定めは有る。更に条例を制定して学校はもとより行政を含め地域全体で防止に取り組もうとの考え、当村で制定しては

教育長答弁

平成十九年青木中A組でいじめ防止に向けた「決議文」をつくった。今も新入学生にその話をしている。制定について当面考えていない。

本会議討論

平成二十五年 度 青木村一般会計予算

賛成討論

居鶴 貞美議員

平成二十五年年度は骨格予算であります。継続事業中心の予算編成となっております。予算は、一年間の収入、支出の見積りであり、基本構想に合致し、長期的な視点にたつての編成が認められます。歳入では、景気動向の低迷の要因があります。自主財源は七億四千六百万円で約七百万円の減少です。三十一・二％で自治体は三割自治と言われておりますが、自主財源の確保には鋭意努力されます事を要望します。村民税、固定資産税、入湯税は減収、税率の改正による村たばこ税の増収、軽自動車税の増収で総体で村

税が構成比十五％と前年比〇・九ポイント上昇の予算で好ましい事です。地方交付税は二千六百万円と前年比減額予算であり、厳しい状況が続いております。歳出では、道路橋梁費の央

平成二十五年 度 青木村一般会計予算について

賛成討論

山本 悟議員

財産管理費の中の委託料、「雨量等監視システム定期点検委託料」三十四万七千円について

平成二十二年七月の集中豪雨では入田沢・浦野川左岸等に道路の寸断・床上・下浸水、農地・山林の崩落等大きな被害が出ました。役場、弘法、入奈良本に降水量、風速・温湿度等を

十万円は他市町村に比し充実しております。少子化対策、産業振興にも配慮されており、今後とも限られた財源の中で有効な事業を選択され、堅実な財政基盤の確立を指向されて村民の期待に応えられる事を要望して、賛成討論といたします。

生活保護基準の引き下げはしないことなど国に意見書提出を求める請願書

反対討論

山本 悟議員

昨年十二月時点で受給者は二百十五万人余で過去最多を記録した。

六十五歳以上高齢世帯・傷病世帯を除く働ける世帯を含む「その他の世帯」が約二十％二十万世帯、約六十人弱に一人の割合の受給率。憲法で保証された「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」も大事だが低賃金で一生懸命身を粉にして働いている人がいる。その人達よりも受給額が多いと言うことは

当初建設した相手先との随意契約によるが、村当局の業者選定等の見直し精査をする等、透明性を高めるとの発言が有ったのでこれに期待し見守る。



雨量監視システム

いかなるものか。又、暴力団の資金源になっていると言う報道もある。働けると思える受給者の自律を促し健全な社会を構築する上からも引き下げは止むを得ない。

明るく元気な村づくりを語る

第六回 村づくり懇談会

第六回村づくり懇談会が、青木村議会と青木村女性団体連絡会と共催で、一月二十七日、文化会館で開催されました。



会場の文化会館では活発な意見交換が行われました

テーマ

「自立の村づくり」

○ 少子高齢化について

○ 観光振興について

○ フリーテーマ

出席者は、各区長、消防団始め、関係機関の代表者約八十名で、テーブル単位によるグループ討議方式で行いました。堀内富治議会議長、小林北コ女性団体連絡会長あいさつの後、青木村の状況について、井古田住民福祉課長、横澤建設産業課長に説明を頂き、討議に入りました。将来の青木村にとって重要な課題だけに真剣に懇談されました。主な内容は次の通りです。

一、少子高齢化について

- 一番の原因は、未婚、晩婚がネックだ。村で婚活を実施し男女の交流の場を設けるべきだ
- 女性消防団の結成と、婚活パーティーを
- 若者定住促進住宅への入居は、もつと年齢幅を広くし、入居の条件を緩和したら
- 入居後青木村に住めるよう対策が重要だ
- 出産祝い金の増額、延長保育や保育料の更なる支援や、教育、児童センターの充実を図ってほしい

二、観光振興について

- 空き家対策、土地のみでなく住宅建設の補助も
- 通学専用バスを、毎日一・二便出したら
- 高齢者専用マンションの建設をし、利益を子供・高齢者対策に利用したら
- 農業体験に、高齢者とのふれあいや、温泉入浴も加えて、温泉の宣伝をしたら
- 村内の旅館の宿泊者に、農業体験（朝採り・摘み取り）やトラッキングコースの利用を
- 観光と直売所をセットで考え振興策を
- 上小地域広域の観光PRと、もつと集落対策と、リピーターを増やす工夫を
- 国道一四三号の早期トンネル化と、関係する有料道路の料金の軽減化を
- 里山の再生をして、松茸の産地化と客寄せ対策を
- 梅の木による観光振興（花見・みかえり漬の加工）
- りんご・米のオーナー制度の取り組みを

三、フリーテーマ

- 議員定数・報酬・通年議会の検討や若者が出やすい環境整備
 - 北信セメント跡地利用として安心して遊ばせることの出来る公園・マンション建設とスーパが欲しい
 - 消防団のポンプ操法大会運営の工夫などをして消防団員の負担軽減をしたら
- 以上、意見・提言を抜粋して掲載させて頂きました。
- 皆さんから寄せられた内容は、今後議会活動の参考とさせて頂き、村政に反映出来るようすすめてまいります。





長野県地方自治政策 課題研修会

第八回を迎えた長野県下の議員を対象とした、自治政策課題研修会が一月十八日県庁講堂で行なわれ、私達議員も参加した。

講演は「長野県経済の現状と今後の見直しについて」と題して、長野県経済研究所調査部長代理兼上席研究員の宮前肇氏が、一、世界経済の見直し
二、最近の日本経済の動向
三、長野県の経済の状況
四、再生可能エネルギーの現状について、報告した。

私は(三)(四)について関心をもった。

長野県経済の状況は、企業マインドは先行きへの不安が続くとし、依然として「曇り」「小雨」の状況が増加するだろうと考え

られる。大きな潜在力を持つ長野県の再生可能エネルギーは

○太陽光発電の潜在力(設備容量)は六百・五万キロワットで全国四位

○小水力発電の潜在力(設備容量)は八十九・一万キロワットで全国で七位

○小水力発電の潜在力(地点数)は千六百十九で全国で二位
○地熱発電の潜在力(設備容量)は五十九・九万キロワットで全国で六位

太陽光へのビジネス参入を決めている企業が多くあるという。又、長野県は既に自然エネルギー自給率が全国四位だという。これらを聞く度に、私は地方市町村議員の役割は重要だとつくづく感じとりました。

休憩をはさんで「地域主導での再生可能エネルギーの導入について」と題して、千葉大学院人文社会科学研究科の倉阪秀史

教授が日本における再生可能エネルギーは、太陽光・水力・地熱・風力・バイオマス・今後は海洋エネルギー(波力・海流なども)も使用することができ「日本は再生可能エネルギーは恵まれている国といえる」。宮前氏と関連するテーマだったが、今後の脱原発・再生可能エネルギーのシナリオ等についてもべて、会場からの質問にも答え、四時過ぎ終了した。私は両講師の問題点について、今後の再生可能エネルギーと自然と地域と一体となった取組をどうすべきか一考された研修会であった。



第8回長野県地方自治政策課題研修会

県営有料道路料金の 見直しについての要 望

平成二十五年一月二十二日、県庁議会棟で行なわれた、関係県議会議員による「三才山トンネル・新和田トンネル・平井寺トンネルの通行料金について無料化ないし軽減化を早期に図ること」の陳情活動に、要望同席者として上田市・東御市・長和町の各議会代表者、鹿教湯地域、鹿教湯三才山リハビリテーションセンター病院、西内東内地区の代表者が、青木村議会からは正副議長・総務建設副委員長と議会事務局の四名が同席をした。

県建設部長からは「三トンネルの通行料無料化は難しいが軽減化は検討したい」との前向きな回答があった。各同席代表者の意見の具申もあり、堀内議長は青木峠のトンネル化も必要であるとの申し出に、今後は検討の必要があるとの回答があった。

上田地域市町村議会 議員研修会

平成二十四年度上田地域市町村議会議員研修会が一月二十二日、上田市丸子文化会館で

開催されました。上田市議会尾島勝議長の主催者あいさつがあり、次に母袋創一上田市長の来賓祝辞に続いて研修に入りました。

「再生可能エネルギー電源の開発と課題」についての演題で、電力中央研究所、社会経済研究所、副研究参事の浅野浩志氏の講演がありました。

東日本大震災、福島原子力事故を受けて、様々な状況が変化している。原子力について、再稼働の見通しと、再稼働しても、寿命が来た時点で徐々に運転を停止し、廃止の方向に向かう可能性があるとの事でありました。再生可能エネルギーについては、環境性に優れた地産地消エネルギーとして期待されるが、運用制約から導入上限と現行の買取制度の効率性が課題である。需給予測として、産業の外移転の加速による需要漸減、節電意識の定着による需要減少するとの事でありました。

メガソーラーの開発状況と事業性については、パネルの基礎を作る必要性がある。円滑な開発・運用には、地元住民を含む自治体の理解・支援が不可欠との事でありました。再生可能エネルギーは長野県は日射条件が良く設備利用率が高いので今後

の普及に向けて研究する必要性を感じました。大変参考になる講演でした。



上田地域市町村議会議員研修会

四年生一組ではカルタを用いて、楽しみながら県名、県庁所在地を覚える、長野県の自慢をタブレットで調べるもの。

五年生は算数で、円と正多角形の作図の仕方を理解する。生徒はタブレットを使い、プリントで確認し、正解の人は自分でプリンターを使用し次の課題に進む。

六年生は、算数のまとめをしようにと行うことで、先生は電子黒板を使い、生徒はタブレットを自由に、テキパキとあやつり、問題を解き、確かめる。

これらの動きを見て、私は子供達が楽しみながら、手を休めることなく、タブレットを扱う四・五・六年生の授業参観に、他議員、教育者も感心しきり、さらなるICT活用授業に期待をしたい。

青木小学校ICT活用授業参観について

青木村の「小・中学校の教育は県下で有名です」と胸を張る教育長、その教育の一貫であるタブレットパソコン(キーボードがないパソコン)授業が二月十五日午後、教育者、議員、有好都市の教育関係者と記者も参観した。

この公開授業は、総務省の平成二十二年度事業の「絆プロジェクト」採用のものである。

上田地域広域連合議会定例会の開催

上田地域広域連合二月定例会が、二月二十日から二十二日迄、上田市丸子地域自治センターで開催されました。

主な案件は、二十四年度一般会計、介護、消防特別会計補正予算、二十五年度各会計の予算、上田地域広域連合広域計画の

改定、並びに大星斎場の指定管理者の指定についてです。補正予算では、一般会計で、四百四十九万五千円の減額とし、十九億四千三百三十四万六千円。介護保険特別会計は、四百六十万五千円を追加し、二十一億九千四百十八万八千円としました。消防特別会計は、千八百七十一万三千円減額して、二十億五百二十八億七千万円とし、各補正予算案は、原案のとおり可決されました。

次に、平成二十五年度、一般会計予算十九億四千五百六十九万七千円、ふるさと基金特別会計予算三億五千九百六十五万八千円、介護保険特別会計予算二億二千二百一十一万九千円、消防特別会計予算二十一億六千四百八十八万九千円とし、原案通り可決されました。

次に広域計画(平成二十五年度から二十八年度)改定案について、大星斎場の指定管理者をさがみ典礼にすることに、提案があり可決されました。

一般質問では、安藤友博議員が、上小医療圏地域医療再生計画の進捗状況と、病院群輪番制病院の救急医療体制の確立について、武井武文議員が、ごみ処理広域化計画についてと消防について質問がありました。

会議終了後、議会全員協議会が開催され、資源循環型施設の推進について説明があり、清浄園周辺の各地域での説明会は終了しました。

清浄園跡地への建設については、関係する自治会が、建設反対であるが、更に各自治会の説得を続け、母袋連合長中心に努力することとしました。

青木村及び上田市共有財産組合定例会

二月二十一日、平成二十五年度第一回青木村及び上田市共有財産組合議会定例会が開催されました。

提出案件は、二十四年度予算に七十一万二千円を追加し、歳入歳出それぞれ千七百五十七千円とする補正予算と、二十五年度予算で歳入歳出それぞれ千七百五十七千円とする予算について、慎重審議の上承認されました。

又、平成二十七年までの五ヶ年計画の進捗状況と平成二十四年度事業状況及び、平成二十五年度の事業計画について説明がありました。

定例議会終了後、県産材を使用した歴史文化資料館と、民俗資料館の視察を行いました。

長野県町村議会議長会第十六回定期総会

去る二月二十六日、長野市で開催されました。会議の中で、議会表彰と、個人表彰があり、四議会と、十四議員の表彰伝達がありました。

会議の内容は

一、平成二十五年度事業計画と一般会計予算について
二、平成二十四年度国・県に対する提案、要望結果についてです。

事業計画については、県内五十八町村の喫緊の課題に適切な対応、会務の合理化と活性化に努め、有効適切な政務活動並びに町村の振興と、発展・議会機能の充実強化が、主な事業計画で、そのために、議員の研修等を行う等です。

一般会計予算については、歳入、歳出とも総額で、二千六十万八千円とし、ほぼ二十四年並みの予算です。

会議終了後、「今後の基礎自治体のあり方」と題して山梨学院大学教授、江藤俊昭氏による特別講演がありました。変化する社会情勢の中で、地方自治のあり方、分権社会のすすめ方等について、貴重な提案がありました。

議会目録

2月

4日／クロスロード障害者施設安全祈願祭(議長)
 15日／小学校 ICT 活用授業公開
 20日／上田地域広域連合議会(正副議長)
 21日／財産組合議会(財産組合議員)
 22日／上田地域広域連合議会(正副議長)
 23日／上田警察署新庁舎落成式(議長)
 23日／東信地区郵便局長会通常総会(議長)
 24日／上田警察署新庁舎見学
 24日／農産物直売所第 8 回通常総会
 (議長・総務建設産業委員長)
 26日／長野県町村議会議長会第 16 回定期総会(議長)
 28日／議会運営委員会(議会運営委)

3月

5日／議会開会
 6日／議会一般質問
 8日／委員会審議社会文教委員会
 11日／委員会審議総務建設産業委員会
 12日／議会審議採決
 12日／議会報編集委員会(議会報編集委員)
 18日／中学校卒業式(正副議長・社会文教委員)
 19日／小学校卒業式(正副議長・社会文教委員)
 19日／大樹会役員会(議長)
 23日／保育園卒園式(正副議長・社会文教委員)

25日／土地開発公社理事会(正副議長・総建・社文委員長・監査委員)
 25日／小学校 PTA 送別会(正副議長・社会文教委員)
 26日／議会報編集委員会(議会報編集委員)
 27日／民俗資料館開館式(正副議長)
 27日／例月監査(監査委員)
 27日／ゲートボール部会総会(議長)

4月

2日／保育園入園式(正副議長・社会文教委員)
 4日／小・中学校入学式(正副議長・社会文教委員)
 5日／議会報編集委員会(議会報編集委員)
 8日／上田地域広域連合議会代表者会(議長)
 12日／小学校 PTA 総会並びに歓迎会(正副議長・社会文教委員)



青木村保育園入園式

今後の予定

5月

13日／上田地域広域連合議会代表者会(議長)
 24日／上田地域広域連合臨時議会(正副議長)
 28日～29日／全国議長会正副議長研修会(正副議長)

宮原村長さんのお話をお聞きしての感想

青木村中学校 1年 Aさん

宮原村長さんのお話を聞いて、僕は青木村に住んでいることにほこりを持って暮らしたいと思いました。村長さんは青木村と上田市が合ぺいしようとしている時に、色々なメリットやデメリットを考えて、青木村は合ぺいしない決断をしたのは本当に青木村が好きだったからだと思います。なので僕も自分のふるさとの青木村を大切にしていきたいです。それと、村長さんが話したように、読書をたくさんして、知識を深めたいです。

青木村中学校 2年 Bさん

宮原村長さんのお話を聞いて青木村のことを思っているいい人だなと思いました。村長さんの言っていたとおりしんねんをもつことはすごく大事だと僕も思います。僕も剣道部としてしんねんをもち毎日、練習にはげんでいます。僕は、あまり読書は好きではありません。でも毎日すこしずつ本を読んでいってみたいと思います。そして一生の仲間をつくっていききたいと思います。自分のふるさと青木村にほこりを持ちこれから生活していきたいと思います。お話をいただきありがとうございます。

青木村中学校 3年 Cさん

村長さんが話していた中で一番私が心に残っていることは「夢」についての話です。村長さんは銀行員をやっている、その後議会議員になり、村長さんになったと聞きました。村長に立候補したきっかけが、自分の理念を通したいということだったので、すごくかっこいいと思いました。私も、これからいろいろなことをやりたいし、夢を叶えたいと思っていますので、強く目標を持ちたいと思います。後、青木村はとても環境が整っていていいと思いました。合併せずに、村を守り続けてきた村長さんはすごいと思いました。

3月14日、青木中学校で宮原村長の講話を聞く機会が設けられました。



この印刷物は、植物性インクおよび再生紙を使用しています。

議会報編集委員会
 委員長 川崎 攻
 委員 八重澤幸夫
 居鶴 貞美
 内藤 賢二
 小林 和雄
 小林 桂三

(四月三日付で辞職)

私は、この編集会議に参加して、委員との誤字・内容・数字の間違ひはないか」と論議の中で、学ぶことも出き、また、「広報も読んでいるが、議会だよりも良く見て読んでいる」と言われて感動している。さらなる村民の声を大切していきたい。編集委員一同感謝とお礼を申し上げます。

(M・K)

編集後記

「鯉のぼり」が青木の風景に良く似合う季節となりました。四年間の編集委員会も、あつという間に過ぎ、新たな出発点でもあります。

村民のみなさん、「議会だより」は、議会のご報告のみならず、行動や主張が伝えられる重要な報告書でもあります。また、先輩議員や役場職員とのつながりと役割をも果たしています。